



●神奈川県内の福祉有償運送団体を中心に約100団体がネットワークしている中間支援組織。

●最近の主な事業

- ・利用相談・団体支援（申請や制度についての助言等）
- ・国交大臣認定講習の定期開催
- ・団体向けの学習会開催
- ・自治体への働きかけ（総合事業取り組みにつなげるための要望書や、コロナ対策への活動支援要望書提出）
- ・自治体との連携事業（住民活動の創出、活動支援）
- ・特別支援学校の通学支援事業の受託窓口
- ・車いすの車両乗車時の安全に関する研究会
- ・地域のたすけあい交通づくりの支援・研修開催
- ・交通事業者との連携

（ ★UDタクシー乗務員研修 ★障がい児者が一人で乗れるタクシープロジェクト）

中間支援組織として

- 高齢者、障がいのある方も自由に出かけられる社会づくり
 - ・ 様々な交通・生活支援モードが連携して、必要なサービス・地域活動をつくるための新たなネットワーク
- 大切な活動(福祉有償運送・たすけあい活動)をなくさないためにやるべきこと
 - ・ 支える側が「やりがい」を感じ、負担なく継続できる仕組みづくり
 - ・ NPOがつくる福祉有償運送の継続性の担保
 - ・ 住民の主体性を尊重し、たすけあいの地域活動、地域づくりに伴走する

多様なニーズに多様な担い手・たすけあいをつなげる

NPO活動

地域のたすけあい活動

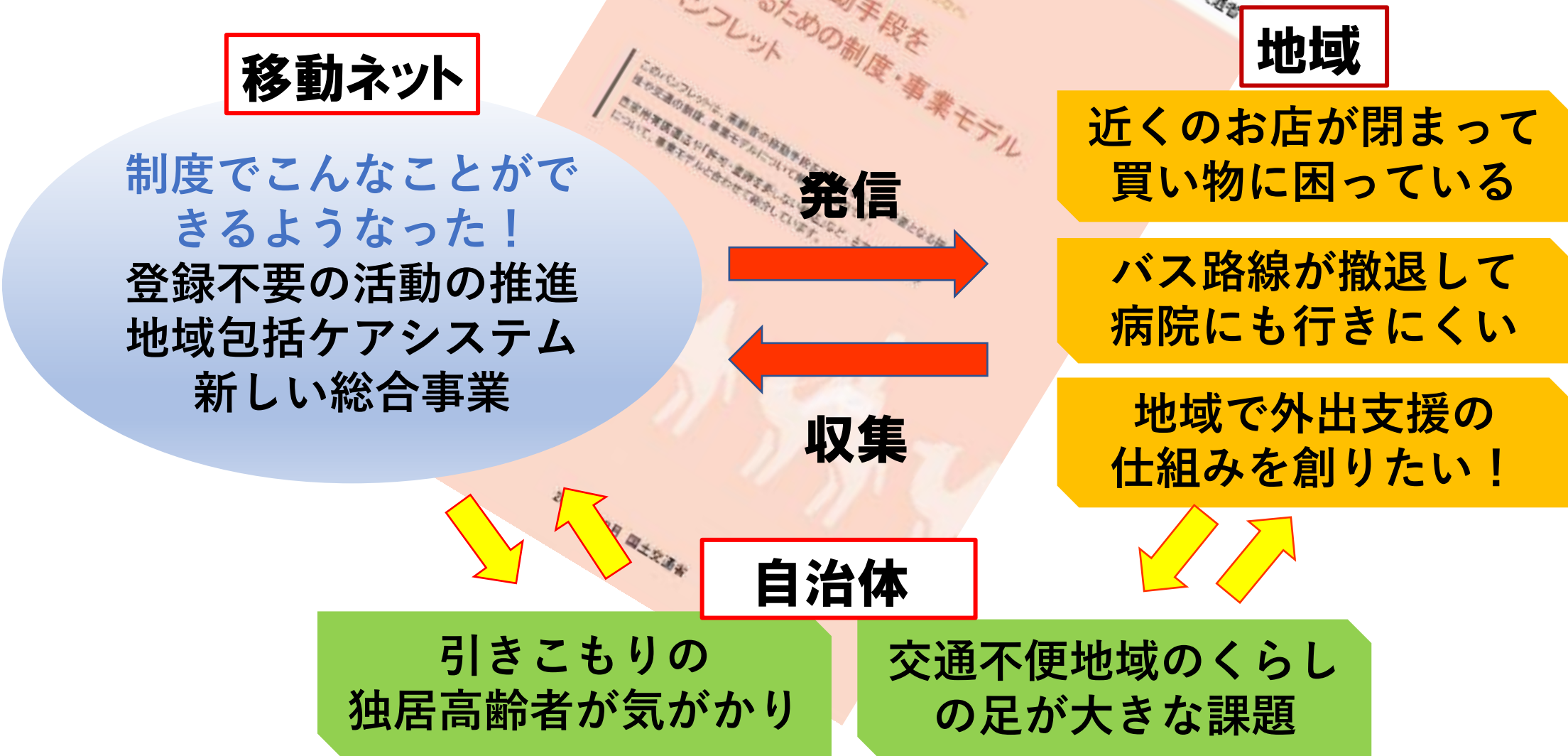
自治体

2004～2006年	神奈川県 <small>の</small> 委託事業／団体の許可登録申請手続き相談、運転者研修、運行管理者研修等
2007～2011年	神奈川県 <small>との</small> 協働事業／地域生活交通創出・再構築事業
2012～2021年	神奈川県 <small>との</small> 共催事業／外出支援関係団体の意見交換会、運転ボランティア養成講座の開催
2018～2021年	綾瀬市委託事業／福祉有償運送団体や住民主体のたすけあい活動の立ち上げ支援
2019～2021年	相模原市委託事／住民主体の高齢者の外出支援活動立ち上げ支援
2019～2021年	全国移動ネットが委託する静岡県の高齢者移動支援事業に協力

中間支援組織としてかながわ移動ネットの取組

動きをつくる！

情報共有とネットワークづくり



県や市町と協力して

外出支援サービスの拡充に向けた学習会（2012年から開催）

◆発信するための強力なツール
【県と共催の学習会 & 意見交換会】

最新の制度の情報
を届ける



地域包括支援センター
自治会役員・民生委員
NPO団体・行政職員
ケアマネジャー

ネットワークを
つくる！

福祉関係者や、
自治会役員などに
新たな仕組みを伝えることで
地域の課題とつながる！

住民主体による移動サービス(登録許可不要の活動) 事例

- ・逗子ハイランド自治会
- ・かないばら苑とボランティアCAP
- ・菊名おでかけバス
- ・綾西みんなの足
- ・ほっくばら買い物支援プロジェクト

社会福祉法人「公益的な取組」の事例 <買い物支援>

社
福

住
民

逗子ハイランド自治会 + 清寿苑の連携で買い物支援

- 社会福祉法人百鷗・清寿苑が車と人(運転手:自治会の事務員を臨時雇用契約)を提供、自治会が添乗して地域の買い物支援を実現。2015年12月より開始
- 車両: デイサービスの空き車両を社福が提供
- 運行: 毎週(月)(木)11:30 スーパー西友前発車→各お宅の前まで。
添乗は逗子・鎌倉ハイランド自治会役員
- 対象者: 多少は歩け特別な介助のいらぬ人 !!



家まで迎えに来てほしいという声もあるけど、私たち「介助」出来るか不安...

スーパーまで来れる人なら、私たちもお手伝いできる。



自治会



■「不安だからやらない」ではなく「できるところまでやる」という選択

デイの空車両



臨時雇用の職員
自治会の事務職



自治会役員
添乗

自治会員

社会福祉法人の車両を活用した支援の事例 <サロン送迎>

社
福

住
民

川崎市 麻生区（社福）一廣会 かないばら苑

【経過】地区社協のサロン交流会の場で、車両を地域のために使えないかとの投げかけから「麻生区の協働推進事業」への参画を経て、2010（平成22）年12月から開始

- かないばら苑が事務局を担い、**車両を提供**（10：00～16：00）
運転ボランティアを組織化。運転ボランティアは、かないばら苑の安全運転管理者が実施する安全運転テストに合格することが条件
- 「**あさお運転ボランティアCAP**」メンバー10人。毎回2人態勢（運転&介助）
自宅からサロン会場へ乗り合いで送迎 <無料> 帰りの途中下車もあり
- 現在 **6団体**のサロン送迎を実施
[片平おしゃべり会] 10～14人/回 [ももとせの会] 4～5人/回
[サロン・ド・それいゆ] 1～2人/回 など
- かないばら苑（特養）入所者のお楽しみ外出へ発展中
- 利用者の方々の感謝の寄付で、運転ボランティアのベストと帽子を15着



菊名おでかけバス ～横浜市港北区～

住民が
運転・添乗・
運行管理

■2011年1月 週1回の運行を開始

■当初はボラの自家用車、現在は地域の人提供車両

■毎週火曜日 1日7便（9時～15時まで毎時定時定路線） ■平均乗車人数 26.7人(2018年)

乗車は乗降ポイント、降車はルート上ならどこでも可能。 1日乗車人数が30人を超えたのは14日

2004年ワゴン車で初めての試運行、その後、横浜市のバス(35人乗り)を借りての3日間の運行。
大きなバス運行を目指すのか(行政への働きかけ)、地域に密着した活動に戻るのかの議論(!)
試行錯誤の中、出した方向性が、【週1回の運行】と【継続】。自分たちのできることを楽しむ。

運行日の
27%

道路運送法に登録不要



■会員数 90名(2019年3月)乗る人、ボラ、応援する人が会員

■会費 年1000円

■町内会の支援、地域の市民活動、包括支援センターなど協力関係をつくりながら活動を広げている

■おでかけバスの運行のほか、サロンや敬老会・ふれあい昼食会の送迎や、学習会の開催なども。

【コミュニティがコミュニティバスをつくる、コミュニティバスがコミュニティをつくる】だから、まちづくり！

綾西みんなの足（綾瀬市） ①

住民

行政

- ・住宅地となって50年 高齢化率41%
- ・通院や買物に不便を感じる人のお手伝い、楽しいおでかけを提案。地域の商業地域(バザール)の活性化を目指して活動し始めた。(会員10名)※車両は市の公用車、運転は市職員。
- ・H30年から 4年間で15回の会議、5回の試運行。地域の「足」を作りたいと市、社協とも連携。

2019年5月 バラ鑑賞と
新施設(福祉プラザ)見学



2019年10月
バザール大市



2019年12月お買い物
2020年2月コンサート



楽しみのため
のおでかけ

通院・買い物
生活を守る外出

ワクチン接種
会場への送迎

新しい試みへ



2020年10/18
バザール大市のイベント送迎として
グリスロ=グリーンスローモビリティの試運行
2021年度 国土技術政策総合研究所(国総研)の
モデル事業採択。2022年3月まで実証運行中!

綾西みんなの足（綾瀬市） ②

自治体の関わり方
に注目

■自治体の方針

地域ぐるみの外出支援策＝地域の活力をつくることに繋がる（市長のメッセージ）



【委託された事業】

①専門性のある外出支援NPOをつくること

※福祉車両購入費補助、活動の広報支援

②地域たすけあいの外出支援活動を増やしていくこと

※運行を実施、検討している市民グループや福祉団体などを対象に、活動費の3分の2（上限35万円）を補助する。車両の無償貸し出しにも応じる。

社会福祉法人との連携でつくる事業の協定にも市として参加。

①②の事業を

かながわ移動ネットが受託し
活動づくりに伴走してきた。

住民が主体的に考えて、実践
をつくる支援をすることが
中間支援組織としての役割。



地域ぐるみの外出支援策は、元気な高齢者を増やすため独自の福祉施策を展開してきた市の理念にも合致する。同課は「引きこもりがちな1人暮らしの高齢者が地域活動や交流サロンに参加することは健康面でも重要。住民同士が支え合うこの送迎活動は、仲間づくりのきっかけになる楽しさもある。実施地区が増えるようにしたい」

ほっくばら買い物支援プロジェクト 御殿場市

社協

住民

道路運送法に登録不要

・中畑地区(玉穂知久における地域と野菊寮活動(試験運行2019年、本格稼働6月)を参考に、2020年2月から検討開始。

社会福祉法人「十字の園」が車両提供快諾。

「ほっくばらみんなで支える移動支援プロジェクト」発足

・6月:区協議委員会で説明 7月いきいきサロンで説明、8月:区の回覧で周知、利用者説明会

・9/8試験運行 9/14本格運行 毎週運行

・毎週(木)と亀さんデー(6月が付く日)に実施

運転ボラ
6名



まさにコロナ禍に活動を開始した。
「コロナフレイル」といわれる外出自粛による課題とも向き合った(!?)

